

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 渡邊彩加

1. はじめに

2018年8月18日から27日までの期間、国際交流基金の助成を受けてバンクーバーサマープログラムに参加し、カナダの Vancouver British Columbia 州にある Vancouver International College (VIC)において医療英語を学び、現地の施設見学をしてきました。また、学外やホームステイ先においても様々な経験をしましたのでここに報告させていただきます。

2. Vancouver International College

VICはEnglish Onlyポリシーが厳しく、たとえ友達同士でも校内では英語以外の言語を話すペナルティがあるという厳しい規則がありました。私たちが参加したプログラムは、午前は学内で医療英語レッスンを受け、午後からは学外の施設見学をするといったスケジュールでした。現役医師や現役救急隊員のスピーチを聞いたり、症状や痛みの種類を伝える英語、受診時や診断時に必要な英語を用いてロールプレイをしたりしました。私たちを担当してくれたAisya先生はとても優しく話しやすく、レッスンはとても楽しく有意義なものでした。



Fig.1 授業風景



Fig.2 注射薬

3. 施設見学

●Paul's Hospital

この病院はダウンタウンにあるため、薬を盗みにくる人がいる可能性があるそうです。そのため、病院内の薬局の入り口には”Pharmacy” というような標識をつけない工夫がされており、日本ではあまり考えられないことなので驚きました。

カナダでは、薬剤師の他に薬を扱う職種としてテクニシャンがいます。薬剤師は医師の手書き処方箋を解読し、不備や間違いがないかを確認する一方で、テクニシャンは無菌室で抗がん剤を含む様々な調剤を行っていました。この病院には35人の薬剤師と65人のテクニシャンが勤務していました。



Fig.3 Paul's Hospital

●Union Gospel Mission (UGM) Recovery Centre

ここはドラッグやアルコール中毒からの自立支援を行う施設です。そのような人や生活困難者が通いやすい地域に建てられているため、この施設の周辺はかなり治安が悪いようでした。食事や飲み物などを無料で提供しており、毎朝100人ほどの人が朝食を食べに来るそうです。クリスチャンによる施設であるため、キリスト教の奉仕の精神で多くの方が手助けしており、五つ星レストランのシェフだった人などすごい方も勤務しているそうです。社会復帰のためにきちんとカウンセリングを受けている人に限りこの施設に宿泊することができるので、ベッドやシャワールームなどの設備も整っていました。この施設を6ヶ月で卒業することを目標に教育プログラムが組み立てられていますが、これを何度も繰り返し、社会復帰するまで時間がかかる人も多く、さらに、この施設を利用する人は少しずつ増えてきているそうです。日本にこのような施設はないので驚くことがたくさんありましたが、様々な人が助け合って社会復帰を応援しているのが素晴らしいと思いました。



Fig.4 UGM

4. ホームステイ

現地の学校(VIC)からバスで40分ほどの場所に位置するお宅にホームステイさせていただきました。ホストファミリーはフィリピンの方で、ホストマザー、ホストファザー、7歳と4歳の女の子がいるご家庭でした。私との会話は英語ですが、家族間での会話はおそらくタガログ語というフィリピンの言語で話しており、私には全く理解できませんでした。私が家に帰ると子供達はいつも走って私を出迎えてくれてとても可愛らしく、一緒に晩ご飯を食べたり、折り紙を折ったり、歌を聞かせてくれたり、楽しい時間を一緒に過ごしました。また、フィリピン人の集まりやベビーシャワーに連れていってもらい、フィリピン料理を食べながらダンスや音楽を楽しみました。



Fig.5 フィリピンの会



Fig.6 ベビーシャワー

5. 観光

放課後には友達と様々なところに遊びに行きました。バンクーバー発祥の地とよばれる歴史街区 Gastown でお土産探しをしたり、バンクーバー美術館へ行ったり、Capilano 吊橋を渡ったり、Stanley Park でサイクリングしたりと毎日が楽しみばかりでした。今回のサマープログラムには1、2、3、4年生が参加していたのですが、学年関係なくみんなで観光を楽しみました。



Fig.7 蒸気時計



Fig.8 Capilano 吊橋

6. さいごに

今回が初めての留学で、出発まで不安な気持ちもありましたが、現地ではとてもたくさんの経験ができ、楽しむことができました。日本で医療英語を学ぶのとは異なり、全て英語で行われるレッスンは毎日が刺激的でしたし、自分から積極的に発言することが大切だと改めて感じました。出発前からアドバイスしていただいていた、「日本人の遠慮というのは海外では通じない」ということを常に意識してホストファミリーと接しました。そのことでより仲良くなれた気がしますし、自分の意見を伝えることができたのだと思います。

日本と大きく異なるカナダの医療制度について、この短期間で全てを理解することはできませんでしたが、薬剤師として海外の医療制度を知ることは日本の医療制度を良くする上でも大切だと思いました。今回のバンクーバーサマープログラムは10日間という短い期間でしたが、本当にたくさんの貴重な経験ができ、私の中で大きな思い出となりました。これからは薬学だけでなく英語力も伸ばし、また海外の医療についても目を向けてみたいと思います。



Fig.9 Aisya 先生と参加メンバー